

## 化学人材交流フォーラム 2021 会長代行ご挨拶

フォーラムに先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。

今年の化学人材交流フォーラムは、コロナ禍により完全 Web 開催となりましたが、発表される学生の皆様、支援専攻の先生方、そして企業の皆様にはご参加をいただき誠にありがとうございます。昨年は対面と Web 参加を含めまして 56 名の参加でしたが、今年は完全オンラインということもあり、81 名のご参加をいただきました。大変嬉しく思っております。



酒井 会長代行  
(昭和電工株式会社 取締役執行役員)

さて、学生の皆さんは、エレクトロニクス分野における半導体不足、モビリティ分野の EV 用リチウム電池の話などを最近よく耳にされるとと思います。これらの製品には多くの先端素材が使われており、それら素材の多くは日本の化学企業が大きなシェアを持って世界をリードしています。また、最近では SDGs や ESG 投資などといった言葉が毎日のように聞かれますが、その中で例えばカーボンニュートラルを達成するためには、化学の力で技術革新を起こす必要があります。化学会社は、このような持続可能な社会を実現するため貢献しています。

一方、化学産業に人材を輩出してきた大学では、最近、応用化学科への進学者が減ってきているとの記事が新聞に掲載されていました。文部科学省によりますと、この 30 年間で入学者が約 3 割減少しているのです。これからの社会に必要な化学人材が不足していくことは、非常に憂慮されることだと思います。

本日は、支援対象専攻博士後期課程の学生 12 名の研究発表と、博士課程を修了して企業に入り現在ご活躍中の 3 名の若手研究員からの報告があります。

本フォーラムの目的は、産学の相互理解を促進することです。企業の皆様には、支援対象の学生の皆さんの研究内容を知っていただき、順調に成長している姿を見てもらいたいと思います。学生の皆さんには、博士課程を修了して企業に入った人がどのような仕事をして活躍されているのか、キャリアイメージを感じる機会にしてもらいたいと思います。

今後、化学産業が果たす役割はますます大きくなります。本日、ご参加の学生の皆さんには是非化学会社に興味を持っていただき、社会をよりよくする化学人材になっていただきたいと願っております。

今年は残念ながら懇親会を開くことができませんが、その分、発表会の中で活発にご質疑ご討論をしていただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。